

図 1 **WARNING: NEVER REMOVE THE TOP COVER FROM THE UNIT. SERIOUS INJURY MAY OCCUR IF THE SYSTEM IS OPERATED WITHOUT THE TOP COVER.**

**Warning: Never Remove the Top Cover from the Unit. Serious Injury May Occur If the System Is Operated without the Top Cover.**

**WARNING: Never remove the top cover from the unit. Serious injury may occur if the system is operated without the top cover.**

おすすめでない例。大文字だけで組んだ単語の輪郭は、どれも同じようになって特徴が無いので、この文章を読み通すまでに時間がかかる。

新聞や雑誌の見出しによくある「ヘッドライン（見出しスタイル）」の一例。強調している感じが出るが、数単語が限度。あまり長いと読みづらい。

読みやすく効果的な例。最初の単語「WARNING」を大文字で組んで、これが重要な警告であることを伝えたら、あとは文頭だけ大文字という標準表記。

図 2 Please do not touch the LANTERNS.

Please DO NOT touch the lanterns.

以下、おすすめでない例を灰色で示す。これは神社で見た「燈籠に触らないでください」という注意書きからの再構成。そこでは「燈籠」の英語が大文字だった。

禁止の札では、何かを「しないで」という部分が真っ先に目に入った方が効果的。

図 3 Grilled ISE Lobster

Grilled Ise Lobster

レストランの和食メニューでも最近は英語が添えてあるが、日本の地名や単語を大文字で組むと調和が乱れる。

標準表記の方が落ち着いて食事できそうな気がする。

## 図4 USAIN BOLT Usain BOLT

Usain BOLT was the track and field star of both the LONDON 2012 and the BEIJING 2008 Olympic Games.

**Usain Bolt was the track and field star of both the London 2012 and the Beijing 2008 Olympic Games.**

文章は以下の IOC 公式ウェブサイトからの引用：  
<http://www.olympic.org/usain-bolt>

大きく目立つ見出し部分はこのようにすべて大文字。

アスリートの一覧の部分は、姓だけを大文字にしている。

本文中でも同じように人の姓や地名が大文字で組まれたら、読む気がしなくなる。

すべて標準表記になって、大文字は最初の一文字だけとなる。もちろん開催地の地名も同様。

## 図5 Japan Association of Translators japan graphic designers association JAPAN SIGN DESIGN ASSOCIATION Japan Typography Association

**Japan Association of Translators  
Japan Graphic Designers Association  
Japan Sign Design Association  
Japan Typography Association**

実際のロゴとは関係なく例示のためにわざとこんなふうに見たが、大規模なオフィスビルのエントランスや催し物の協賛企業の並記のときによく見かける例。大きさも行間もそろわない。「自分たちの会社の表記はこれだ」という作り手の事情を読み手は汲んでくれるのだろうか。

ロゴとサインは別のもので、という考え方。普通のことを普通にするだけで、こんなに整理整頓されて見える。

図7 皆様に「健康」と「癒やし」を提供

**offer you “health” and “relaxations”**

**offer you health and relaxations**

「安全」で「快適」な旅を

**a “safe” and “comfortable” journey**

**a safe and comfortable journey**

日本語で「」で括られた言葉は、英文で引用符に入れると皮肉と捉えられ、この文章を書いた人は本当はそうは思っていないのだろうという印象を与えがち。

せっかく良い響きの言葉を選んでも、見せ方一つでおかしなことになってしまう。とくに「安全」が皮肉だとすると笑えない。